「登校しぶり」をみんなで考えよう 体験記

## 【卒業生 Bさんの保護者の方】

1．登校をしぶり出したころの経緯（子どもの声や態度も含む）

4年の頃、クラスに馴染めなかった。

2．登校をしぶり出したころの思い（親の思い）

月に数回は休んで心身ともに休息したらいいと思っていた。

3．登校しぶりを克服できた、もしくは良い方向に向かった理由（気を付けたことや意識したこと）

ほったらかして仕事に行った。

4．登校しぶりで困っている保護者へのメッセージ（元気がでる言葉）

学校に行かない選択肢があっていいと思う。子供の人生の責任を負うのは子供自身である。親は親の人生があり、過剰に子供に巻き込まれないほうがよいと思う。

＜校長のつぶやき＞

卒業生の保護者（地域の方）からも原稿依頼をさせてもらいました。快く書いていただきありがたかったです。「人生の責任を負うのは子ども自身」という気持ちになれたところがすごいと思います。子どもに委ねる気持ちが大切なのですね。動じない親の姿を見せる大切さを学びました。

。